



Title	『北方言語研究』第10号特集企画「言語類型論と北方諸言語研究」
Author(s)	呉人, 惠; 江畑, 冬生
Citation	北方言語研究, 10
Issue Date	2020-03-20
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77610
Type	bulletin (editorial)
File Information	00_aisatsu.pdf



[Instructions for use](#)

『北方言語研究』第10号特集企画「言語類型論と北方諸言語研究」

『北方言語研究』は2011年から毎年刊行を重ね、このたび第10号を送り出すことになりました。2018年12月に日本北方言語学会を設立し、『北方言語研究』も前号からリニューアルされました。さらに本号では創刊10年目を記念し、特集企画「言語類型論と北方諸言語研究」を組んでいます。以下、本特集の背景について説明いたします。

宮岡 伯人（編）（1992）『北の言語：類型と歴史』は、日本の北方言語研究の1つの高みであると位置づけられます。本会会員諸氏により執筆されたものも多く含む諸論文は、いずれも記述的にも類型的にも極めて高いレベルを示しています。加えて、本書を読んで大きな刺激を受けた研究者も多かったであろうと思われます。

同書第1章（宮岡 伯人「環北太平洋の言語」）の第4節では、北方諸言語の類型的多様性について述べられています。ここでは複統合性、重複、名詞抱合、接辞法（語彙的接辞）、名詞類別などにおいて、北方諸言語が興味深い事例を豊富に持つことが示されます。一方で第18章（千野 栄一「非インド・ヨーロッパ語」）では、タイトルの通り非インド・ヨーロッパ語の研究の重要性が説かれています。そして北方諸言語の研究の進展が、言語学全体の発展にも重要であるという示唆があります。北方地域の個別言語研究は、一般言語学・言語類型論にも大いに貢献できる可能性があります。

近年の言語類型論研究の進展と日本の研究者らによる北方諸言語の記述研究の蓄積を踏まえつつ、日本北方言語学会の第2回大会（2019年11月富山大学）では「言語類型論と北方諸言語研究」をテーマとする特別セッションを設けました。この特別セッションでの会員諸氏による議論を取り入れながら、本号でも特集「言語類型論と北方諸言語研究」をお送りする次第です。もちろんのこと、本号所収の特集以外の論考も、一般言語学あるいは言語類型論に寄与しうるはずです。今後も本誌『北方言語研究』が北方諸言語の研究を通じて広く言語一般の問題にも光をあてる存在であるようにしていきたいと思えます。

2020年2月28日
日本北方言語学会
会長 呉人 恵
特集企画 江畑冬生